

B
3

茨城県コンクリート製品協同組合

住 所	〒311-4142 茨城県水戸市東赤塚2154-3		
U R L	http://www.ibacon.jp/		
設 立	昭和43年2月	主 な 業 種	製造業
組 合 員 数	20人	出 資 金	65,750千円

■背景・目的

組合で共同販売を行う新製品の開発にあたり、社会や時代のニーズに合った製品の開発を目指した。既存製品との差別化を図るため、茨城大学との連携により実証実験を行い、さらに特許も取得するなど、強固な客観的評価を付与することにより製品の差別化、付加価値を高めることを目指した。

■取組みの手法と内容

組合員各社がコンクリートの二次製品を開発・販売する中で、それらと競合しない組合オリジナル製品を模索していたが、企画を練っていく中で、ガードレール用基礎ブロックは県内企業では製造されておらず、必要な場合は県外から仕入れていることが確認された。また、歩行者の安全を守る社会的要請の高まり、道路の景観向上といったニーズに合致した製品の開発、製造を目指した。さらに、基礎部分への生コン打設が不要など、工期短縮による工事全体のコスト削減、労働力不足への対応、施工性の優れた新製品の開発に取り組んだ。

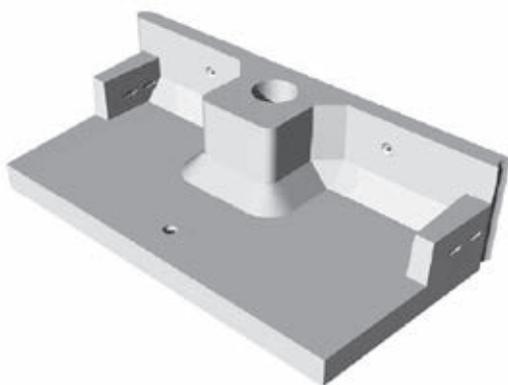
開発にあたっては、茨城大学との産学連携により、新製品の耐久性等について実証実験を行うなどして、付加価値を高めることとした。また、特許についても取得済である。

新製品を開発して終わりではなく、組合員の売上拡大につながるように、販路を開拓、拡大させ、業界スタンダード製品にすることが課題であるため、自治体等発注元へ開発製品の優位性を強みとして営業を行うこととしている。また、発注時に相見積もりが不要な業界単価基準としてこの新製品が認められるよう茨城県の単価表への掲載を働きかける予定である。また、併せて全国版の情報誌にも掲載されるよう働きかけをしていく予定である。

■成果とその要因

組合員企業から「製品開発にあたり、組合での活動に時間を取られすぎている」との意見も出る程、品質・技術委員会を中心に一致団結して新製品を開発した。茨城大学との産学連携にあっても品質・技術委員会を中心に検討を重ね、製品の付加価値を高めることができた。

外部との連携



ガードレール用基礎ブロックの製品イメージ図



実証実験の様子



Point

次代の組合基幹製品を開発するという品質・技術委員会メンバーの情熱が、特許取得、実証実験等における大学との産学連携を可能にさせ、新製品に高い付加価値が付与されたこと。